

第69回日本公衆衛生学会総会（東京）へのお誘い

第69回日本公衆衛生学会総会学会長

大井田 隆

日本大学医学部 公衆衛生学分野教授

2010年の新春を迎え、日本公衆衛生学会会員の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年秋、東京都で開催される第69回日本公衆衛生学会総会の学会長にご指名いただき光栄の至りです。わが国における公衆衛生学としての本格的発展は、1947年（昭和22年）に日本公衆衛生学会が発足してからで、大学、研究所と行政の第一線で活躍する保健所医師や保健師等の公衆衛生従事者の交流と連携による研究と実践活動の機運が高まったことによります。その後、住民の健康問題が提起される度に公衆衛生学を志す人々が増え、今では8,600人の研究者や実践家を擁する学会にまでなりました。日本公衆衛生学会総会は1947年（昭和22年）東京都で開催して以来60年あまり、その後年1度全国各地で開催して参りましたが、この度日本の首都東京で開催すべきであるという多くの声に推され東京都で行うことになりました。東京都での開催は、平成4年に国立公衆衛生院長の高石先生が学会長として開催してから18年ぶりのことで、関係者一同、公衆衛生領域の専門職、研究職、行政職の方々を全国から多数お迎えすることの緊張と期待をもって、総会準備を鋭意進めているところです。

本学会総会では「公衆衛生の発展に向けて～調査研究から政策へ～」を主題として、これに関連したメインシンポジウムを始め、記念講演、特別講演、シンポジウム、公衆衛生行政研修フォーラム、教育講演やランチョンセミナーなどの特別プログラムなど学術部会（部会長：小林廉毅教授）を中心に企画しています。また、1,800題近い示説の一般演題の応募があるものと期待していますので、大いに論議していただければと願っています。公衆衛生はその時代、その社会とともにありますが、公衆衛生学というものは、人々の健康問題の要因を人間と社会・環境の関連性の中で解析し、その予防法や解決方法を研究するものです。さらに、その研究結果を基にして政策の立案や法律・制度の充実を図り、人々の健康意識を高め望ましい行動を促すことなどを、社会をあげて実施し、その実践活動の評価についても研究するなどの、まことに実践的な学問であり技術です。その考えに基づいて、今回の学会総会の主題「公衆衛生の発展に向けて～調査研究から政策へ～」といたしました。

ご存知のように東京は政治、経済、文化および科学の日本の中心です。また国際都市としても有名であり、一度政治の中心地永田町、経済の中心地大手町や商業の中心地銀座・新宿・渋谷などをご覧になるのも良いかもしれません。東京は江戸幕府が開かれてから400年、今も江戸文化の香る庭園、寺院、施設など古都京都・奈良にも負けないほどの数多くの史跡にも恵まれ、まさに現代と伝統が調和を保ちながら共存している大都市です。

多くの会員の皆様方と関係者各位が本学会総会へ御参加することを心待ちにしております。

第69回日本公衆衛生学会総会（東京）へのご案内（第一報）

1. 会 期

平成22年10月27日（水）から29日（金）までの3日間

2. 会 場

東京国際フォーラム 千代田区丸の内 3-5-1

3. 学会長・学会長代行・副学会長・顧問（予定）

名誉学会長：石原慎太郎（東京都知事）

名 誉 顧 問：多田 正見（特別区長会会長）

学 会 長：大井田 隆（日本大学医学部教授）

学会長代行：桜山 豊夫（東京都福祉保健局技監）

副 学 会 長：鈴木 聡男（東京都医師会長）

安藤 立美（東京都福祉保健局長）

監 事：松井多美雄（東京都福祉保健局総務部長）

遠藤 明（財団法人医療情報システム開発センター理事）

4. 総会事務局

総会事務局：東京都保健政策部保健政策課

学術部会事務局：日本大学医学部 公衆衛生学分野

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ

5. プログラム（予定）

総会主題：公衆衛生の発展に向けて～調査研究から政策へ～

- 学会長講演：大井田隆「公衆衛生とは～調査研究から政策へ～」
- 特別講演：村尾信尚 「わが国の社会保障の将来と現実（仮題）」
中西準子「環境と公衆衛生（仮題）」
- 教育講演
- メインシンポジウム
- シンポジウム
- 公衆衛生行政研修フォーラム
- 奨励賞受賞者講演
- 学会委員会フォーラムなど

6. 一般演題・自由集会申し込み

2010年4月1日（木）～6月10日（木）正午

7. 今後の情報

日本公衆衛生雑誌第57巻第3号

学会ホームページ（<http://www.secretariat.ne.jp/jsph69/>）